

おひさま通信

理解と専門性

支援員とは別の
専門性のある
職員の思い

私たちは、暮らしていく時に様々な困難に出会います。そんな時、障害のない私たちは自分の力で、自己責任として困難に対して必要な専門性を組織します。しかし、障害のある人、まして重い障害のある人が困難に出会った時、私たちと同じように対応していくことは困難です。みぬま福祉会の多くの仲間たちは、困難に出会うと、まず現場の支援員が寄り添います。しかし、それだけでは具体的な問題が解決しない時も多々あります。お金のこと、食事のこと、健康のこと…。みぬま福祉会には、これらのことについての専門性を持った職員たちが働いています。支援員に比べると、日常的にかかわる時間は少なくても、たよりになる、かけがえのない、仲間たちにとって大切な人として、支えてくれています。今回は、「食事」「健康」「事務」の立場で仲間たちに寄り添ってくれている職員たちの思いを聞きます。

私は川口太陽の家で栄養士として働いており、食事を通して、仲間の健康を守りたいと考えています。食べる事で栄養を取り込めますが、食事をするように食べるのが大切です。楽しい環境や過ごしやすい環境の中で食べるのと、1人で寂しく食べるのでは美味しさも違いますよね。それに、同じ料理でも食材の色合いにより美味しように見えますし、旬の食材を使用することで季節を感じられると共に、その時期特有の食感や風味を味わうことが出来ます。給食の献立の中には旬の物や行事食等を取り入れるようにしています。また、厨房では毎月、メニューについて話し合いの場を設けています。大量調理のため献立に入れられない物もあります。どのようになら取り入れることが出来るのかなども話し合っています。

栄養士として栄養価を考える事は必要ですが、美味しくなければ食べられませんし、食べてもらえなければ身体に栄養を取り入れる事はできません。また入所施設とは違い、通所施設では一日一食です。そのため間食、家やホームでの食事との兼ね合いを考える事は困難ですが、肉・魚・野菜等を偏らないように献立に取り入れるように心がけています。希望食に関しては、青年隊で話し合

い、希望メニューを出して頂き、献立の中に組み込んでいます。今後は青年隊以外の仲間への聞き取りも行っていければと考えています。

昨年度から週間献立(写真付き)を掲示するようにしました。以前に比べ、仲間が立ち止まって見てくれるようになりました。また食事を回る回数が増えた仲間もいます。大変さはありますが、今後も続けていこうと思います。

最後に、仲間に「おいしかった」という言葉をかけてもらえることが何よりも嬉しい事です。ですが、どんな意見でもとてもありがたいと思っています。料理に対して思ったことをそのまま言って頂けると、次に繋げていく事ができるためなんでも言って下さい。厨房職員一同、頑張っていきたいと思いますので、これからも宜しくお願いいたします。

川口太陽の家 栄養士 土山 美保子

仲間の健康を管理するためには、常日頃から仲間と密接に関わる事が求められています。

大地ではこの13年間、加齢に伴う機能低下、障害の進行により、年々医療的配慮が必要な利用者が増えている現状があります。痰吸引が必要となる人、胃ろうによる経管栄養を行っている人、バイパップという人工呼

吸器の一種である機械を使っている人、気管切開をしている人など、様々な医療行為を必要とする仲間が増えています。看護師は35名のバイタルチェック、突発的な病気の対応、吸入・吸引の処置など幅広い医療的ケアを行っています。そして介護職員のスキルアップのための学習会を実施する必要もあります。看護師1人という体制の中、職員と連携を取りながら、仲間の健康を守っているのです。

今年の1月、私たちの大切な仲間が旅立って行きました。彼は、様々な医療行為を受けながら、大地で暮らしていました。しかし、医療面だけにとらわれるのではなく、他の仲間との関わりや日々の生活を大切にすることを心がけました。みんなに愛されながら最期まで精一杯生き抜いた彼の姿から、職員も仲間もたくさん学ぶことは出来ないでいないかな。

彼との関わりから、「施設での看護師の役割」をたくさん教えてもらうことができました。

看護師1人というのは、相談したい時にその相手がいないという辛さがあります。仲間が健康上問題を生じると、自分の力量不足を責めることもあります。プレッシャーを感じることがありますが、仲間の笑顔や、

他の職員に支えられながらこの仕事をしていることを実感しています。

大地 看護師 飯塚 郁

私たち、事務員は「直接処遇職員」には該当しません。主な仕事は施設会計業務や業者への支払い、職員の勤務把握、給与計算、そして仲間の金銭管理です。このように仲間の介助に直接関われなくても、間接的に仲間の生活を支え、充足した生活を送れるよう手伝いをする事が、私たちの役割であると考えています。

平成27年度みぬま福祉会も新会計へ移行し、慣れない会計処理に頭を抱えています。今年度は4月から報酬改定も加わり、加算の変更など制度が変わるたびに煩雑さを増しています。業者への支払いや、利用料等、金銭の管理においても1円の誤差もあつてはならないよう細心の注意を払わなくてはなりません。

毎朝出勤すると、私を待っていてくれたかのように、新聞やその日のおやつを事務室まで取りに来る仲間がいます。職員が、リハビリ中に事務室まで仲間を連れてきて、頑張っている姿を見せてくれます。ある仲間は、「明日くる？」と毎日のように聞いてくれ、少し遅くまで仕事をしている」と「超勤つけてね(時間外手当での申請をしてね)」と気遣っ

てくれます。「新しいパジャマを買ったの、見せてあげるね」と日曜外出で買ってきた真新しいパジャマを嬉しそうに見せてくれる仲間の笑顔に、私自身がいい買い物をしたかのような満足感に浸ることもあります。1日のほとんどの時間を数字や文章と過ごしている私にとって、そういった仲間の存在がとても大きく、ありがたく感じています。

このように仲間に直接関わる仕事ではありませんが、私たちの仕事も仲間の生活を支える重要な役割を担っていると思っています。大地では仲間の加齢等による介護度の上昇や喀痰吸引等、職員も専門的知識や技術が必要となっています。私も数字や文章と格闘しながら、情勢を学び、仲間と共同し、豊かな暮らしの場づくりの一員として頑張っていきたいです。

大地 事務員 小林 真弓



響き

アトリエ輪

*5月25日(月)に、アトリエ輪の開所式と施設見学会が行われました。開所式では、仲間たちが全員前に出て挨拶をしました。緊張しながらも「みんながいるから大丈夫です」という言葉に、仲間同士の「輪」を感じました。

開所式にのぞむにあたっては、事前に仲間たちと話し合いをし、「みんなで開所式を一緒につくっていきましょう」と確認しました。仲間全員が、開所式の発表後、見学会の説明役・案内役のほか、当日の看板作り、記念品係など、何らかの役割を担って、来賓の方をおもてなしすることができました。

当日は、恥ずかしがりながらも、どこか誇らしげな仲間たちの姿が見られました。

白岡市障害者デイサービスセンター
*6月8日からラベンダーと小菊の切り花販売を、はびすしらおか玄関前で始めました。

「小菊」は今年から始めました。紅・黄・白、色のバランスを考えて束ねます。ラベンダーと共に一束百円で販売。サークル帰りのお客さんで初日から大賑わいでした。

太陽の里

*災害拠点スペースが完成して1カ月が過ぎました。5月22日に引越しとささやかながらドーナツとジュースなどを用意し開所式を行いました。

きれいな雑貨やさんではマイエソンの効能を見るために昨年度からアップルゴーヤを栽培しています。毎日、仕事に来ると仲間たちが水やりをしているので今年も美味しいアップルゴーヤが出来そうです。販売に繋げていけたらと思っています。

蓮田はすの実作業所

*この建物で行われる最後の作品展が6月18日、21日まで開催されました。今回は家族と協力して4日間カフェを同時開催し、近所の方々含めたくさんの方々がおいしくなりカフェも楽しんでいました。

サンライズ
*ゴールデンウィーク中の5月3日から6日にかけてカラオケや温泉、ボウリング、東京へ旅行に行ったりなど、色んな楽しみがありました！サンライズに残った仲間が協力しながらお菓子を作り、みんなに振る舞いました。おいしかったですね(笑)。皆さん自分のやりたいことをしっかりと満喫できたようで、ニコニコ楽しいゴールデンウィークになりました。